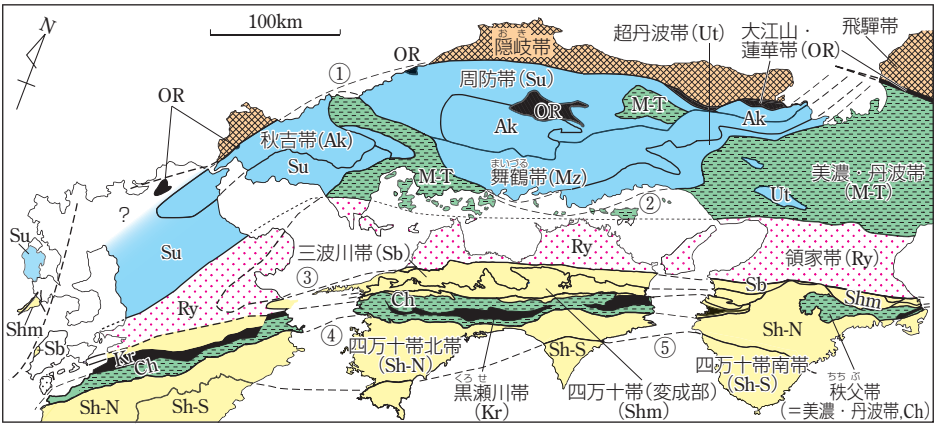
C 日本列島の地質構造

◉日本列島の基盤岩◉ 日本列島の土台は，厚さ約 40 km の大陸地殻でできている。主に花こう岩質の深成岩からなるが，その表層部数 km はさまざまな堆積岩・火成岩および変成岩で構成されている。特に表面の 60％は新生代の地層や火山岩や火山噴出物が覆っている。その下には，比較的かたく固まったさまざまな岩石や地層がある。表層を覆う若い地層に対して，これらは日本列島の基盤岩とよばれている。

日本列島の基盤岩には，起源の異なる 2 つのグループがある。1 つは，もともと中国大陸東縁の一部をなしていたものである。西南日本の飛騨山脈や東北日本の北上山地南部などに局地的に分布する。それらはおそらく先カンブリア時代の基盤岩石の上に堆積した大陸性の古生代の地層である。もう 1 つのグループは，太平洋側からのプレートの沈み込みによって大陸縁に新たに形成された岩石・地層群である。主にプレートが沈み込む海溝において陸側プレートの先端で形成された付加体と，その一部が低温高圧型および高温低圧型変成岩となったものから構成される。さらに，それらに貫入した花こう岩質の深成岩やさまざまな火山岩を伴う。これらの岩石は，北海道から南



白亜紀～新第三紀の付加体（低温高圧型変成岩を含む）
白亜紀の花こう岩と高温低圧型変成岩
ジュラ紀の付加体
古生代～三畳紀の付加体（低温高圧型変成岩を含む）
古いさまざまな岩石の混在部
先カンブリア時代の大陸の断片

①長門－飛騨外縁構造線　②石垣－玖珂構造線　③中央構造線　④仏像構造線　⑤安芸構造線

▲図 3　西南日本の地質構造区分